

【校訓】 誠実 勤勉 協力 奉仕

埼玉県立皆野高等学校



60年 お世話になりました ありがとう皆野町

58 回目 最後の卒業式 閉校舎式 が無事終了

3月7日(土) 午前10時より皆野高校第58回卒業証書授与式を挙行。皆野高校最後の卒業式が来賓の皆さま、保護者、教職員に加えて多くの同窓会員や地域の皆さまが見守るなかで盛大に開催されました。

卒業式終了後はPTA・後援会の臨時総会により組織を閉じる最後の総会を開催しました。並行して同窓会も臨時総会を開催し、8月の定期総会時に決定していた同窓会活動の継続に向けた決議もされ、同窓会は4月から名称を変え、会則も変更し皆野高校同窓会を母体に再結成し、活動継続が決定しました(詳細は下記に記載)。

正午からは、卒業式に参加されなかった地域の皆さまにもHR棟などの校舎を開放し見学していただきました。キッチンカーも昇降口前に並び昼食をとっていただきながら楽しい時間を過ごしていただきました。

午後1時から体育館にて「はなむけコンサート」として2組のプロの演奏を楽しみました。サクスのプロ「ハヤシダ・ファミリア サクソフォンカルテット」の4名による演奏。皆野高校の校歌も今回のために編曲していただき演奏。続いて、津軽三味線のプロ演奏家「山中信人」氏によるトークを交えながらの演奏。即興で校歌の三味線用楽譜をつくられて校歌も演奏していただきました。

また体育館でのコンサートと並行して、校舎を利用し、在校生と卒業生との交流イベントを開催しました。各教室内ではプチ同窓会に加えて、旧職員参加企画「今だから話せる思い出ばなし」を実施。年代別4グループを設けて、当時の先生方をパネリスト的に計18名をお迎えして皆高を語っていただき、多くの同窓生は、あの頃に帰った気分を楽しみました。後半は長い期間勤務された先生方を中心に2回実施しました。

午後4時から体育館に全員集合して閉校舎式。統合校である現秩父高校代表生徒も2名参加していただき校旗の引き渡し式、使い古した学習机の天板を利用して制作した感謝状をアンカーズへ授与など30分予定の式が、最後の全体記念写真の撮影も含めると1時間近い内容となりました。

さらに、その後に視聴覚室で地域おこし協力隊の方々企画してくださった卒業式と閉校舎式の「後夜祭」では、卒業したアンカーズ、保護者、教職員とで6時終了予定でしたが7時近くまで笑いあり涙ありの後夜祭となりました。皆高最後の学校行事の1日。多くの方々に参加していただき、みんなで最高の日にすることができました！！



⇨ LINE ヤフー制作の皆野高校卒業・閉校舎に関するYouTube動画が発信されています。ご覧ください。

皆野高校同窓会は「皆野町高志會」(略称:皆高会) みなこうかい として活動継続

3月7日最後の卒業式後に開催した臨時総会で皆野高校同窓会は再結成して活動を継続することが承認されました。学校は統合、PTA・後援会は解散となりますが同窓会は再結成し活動を継続します。

会則も変更案が承認され、新役員案も認められました。みなこう会の会長は継続して出浦洋介氏、事務局は皆野町大淵「みな」のLABO」に置かれます。今まで使用してきた同窓会LINEも継続して使用します。ホームページは新たに立ち上げます。皆野高校が今まで地域と共に取り組んできた地域連携や地域貢献の一部を継続していきます。

「皆野町高志會」(略称:皆高会) 総会 開催予定日

令和8年8月21日(金)18時30分 / みな」のLABO(大淵 284・電話 26-5583)

ぜひ、ご参加を予定してください。なお、主旨に賛同していただける方は皆野高校卒業生以外にも新規加入をしていただき、会を盛り上げていきたいと思っております。

令和 7 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立皆野高等学校 ）

目 指 す 学 校 像	校訓（誠実・勤勉・協力・奉仕）の理念の下、 地域の活性化に寄与し、地域社会と産業を支える人材を育成する学校
-------------	--

重 点 目 標	1 主体的・対話的で深い学びを推進し、確かな学力を育成する。 2 地域の人材と資源を活用し、地域と連携した特色ある学びを推進する。 3 思いやりの気持ちの醸成やあいさつの励行を通し、健全な心身を育成する。 4 生徒の特性に応じた進路指導を推進し、地域で活躍する人材を輩出する。
---------	---

達 成 度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の 学校評価懇話会を開催し、学校自己評 価を踏まえて評価を受けた日とする。			
出席者	学校関係者	7名	
	生徒	3名	
	事務局(教職員)	7名	

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 （ 2 月 1 日 現 在 ）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成 次年度への課題と改善策
1	【現状】生徒の資質・能力に寄り添った指導を行っている。加えて、体験的な学びや商品開発、資格取得の奨励等、外部との連携を進めている。 【課題】在籍生徒が3年生のみとなり、社会で活躍できるよう卒業後を見据えた指導が必須となる。 ○基礎学力の定着を図るきめ細やかな学習指導○授業研究等校内研修の継続○検定試験挑戦の奨励と成功体験の機会の確保○地域等外部との更なる連携○ICT機器の積極的な活用	基礎学力の定着と学力の向上、学びの深化を目指すことができたか。	①授業研究週間の設定と協議会の実施。（通年） ②検定合格者数を増加させる。（通年） ③生徒理解に基づいた指導を主に、各教科での総合的な評価方法を実施。（通年） ④アンケートを用いた授業改善。（通年） ⑤ICT 活用とアクティブラーニングを用いた授業の実施。（通年） ⑥高校通級による生徒の社会性体得。（通年）	①相互に授業見学をし、協議会で意見交換ができたか。 ②計画的な検定試験指導により、合格に導くことができたか。 ③各教科で多面的・総合的に評価したか。 ④生徒アンケートを実施し、評価結果を分析し授業改善ができたか。 ⑤生徒が自主的に授業に取り組むことができたか。 ⑥教育支援プランに沿って計画的に指導できたか。	①年2回計4週間実施。授業改善協議会2回実施。 ②生徒に適切な指導を実施し1級等の合格者を輩出した。 ③教科内で共通認識、協議を重ねた上で評価を行った。 ④工夫を凝らした授業により、アンケート「授業内容の理解度」についてはプラス評価の回答は100%である。 ⑤アンケート「積極的に取り組んでいる」ではプラス評価の回答は90%。 ⑥生徒の特性を理解し計画的に指導を行った。	A 一人ひとりの生徒理解のもと、基礎学力の定着と学力の向上は勿論、卒業後を見据えた指導を実施した。具体的には、資料提示など効果的に ICT 機器を用いた授業の実践や、授業研究週間と協議会を設定し、授業について意見交換の場を設ける等授業改善に務めた。また、個々に合わせた検定試験への奨励と補習等も実施した。
2	【現状】特色ある教育活動を実施するとともに、地域と連携し規模を維持した行事等を実施することができた。 【課題】昨年度よりも生徒や教職員が一層減少した中で行う、統合や周年行事等の行事やイベントについて、工夫を凝らす必要がある。かつ、地域と相互協力し、外部人材の活用を取り入れ、人数が少ないからこそできる教育に挑戦する。 ○町役場、商工会等地域と情報共有を図り連携協力する。 ○異校種等と連携し、生徒の活躍の場を設ける。 ○秩父圏域4高校の行事等の継続実施。	地域の人材と資源を活用した、皆野高校ならではの唯一無二の教育活動を行うことと外部に発信することができたか。	①開発商品の販売実習を行う。（通年） ②学校運営協議会を開催し、行事（文化祭等）で協力を得る。（3回） ③異校種等と交流事業を行う。地域人材の活用を促進する。（通年） ④進路懇談会(6月)、在り方生き方教育の実施。（通年） ⑤本校の取組を逐次発信（HP 毎日更新。皆高 CS times（学校新聞）毎月発行・地域配布。報道依頼等）。（通年） ⑥中学生対象の進学相談会(7月)、見学会(1月)、説明会(1月)への参加。ちちぶファミリー出演。（通年） ⑦交通安全運動で有料道路料金所でのお守り配布（2回）、ミニ門松制作配布等。	①商品開発の販売実習等実施できたか。 ②学校運営協議会での意見交換・提言を活用できたか。 ③地域の各機関との連携を活性化することができたか。また統合にあたり同窓生と交流を深めることができたか。 ④地域の協力を得て実施できたか。 ⑤HP 更新回数やアクセス数、新聞等へ取り上げられる回数が増加したか。 ⑥秩父定住自立圏と連携できたか。 ⑦地域行事（お守り配布等）へ参加することができたか。	①商品開発した商品の販売実習。一般向け「観光ツアープロジェクト」の計画・販売・実施。 ②年3回学校運営協議会を開催し、創立60周年記念式典・文化祭等で協力を得た。 ③異校種等と交流事業、地域人材の活用。公開講座14講座開講。 ④進路懇談会(6月)、在り方生き方教育をはじめ各イベントで交流。 ⑤HP毎日更新（連続989回）。皆高 times（学校新聞）毎月発行・地域配布。報道等180回以上掲載。 ⑥中学生対象の進学相談会(7月)、説明会(2月)実施。ちちぶファミリー(9回)等。 ⑦交通安全運動で有料道路料金所でお守り配布（2回）、ミニ門松作製他多数取組んだ。	A 昨年度より一層地域連携を深める一年だった。創立60周年記念式典や文化祭等の行事では外部の方の協力のもと、華々しく開催することができた。 また商業科観光ビジネスの授業では、1年を通し「観光ツアープロジェクト」の計画・一般に向け販売、実施を行った。立案・プレゼン・フィールドワーク等を始めたとする様々な場面で地域の方々からのアドバイスを得、内容をブラッシュアップし2コースを実施することができた。ツアー参加者によるアンケートは、楽しかった等プラス評価の回答ばかりであった。
3	【現状】生徒が主体的に参加する学校行事や部活動、生徒会活動は行えている。一方、学校を休みがちな生徒も見受けられる。 【課題】引続き基本的生活習慣の定着や社会性規範意識を育成、コミュニケーション能力の育成を実施する必要がある。 ○生徒の活躍の機会確保 ○挨拶励行と整容指導の継続 ○SCや巡回支援員等外部専門家を活用した相談体制の継続維持 ○外部専門家による講演会等の実施。	活気ある学校行事や部活動等を実施することができたか。また、日常的に声掛けをし、きめ細やかな生徒指導を行うことができたか。	①遅刻指導の実施（通年）。 ②自転車使用について指導を実施（2回）。 ③土砂災害訓練等総合防災訓練の実施（4回）。 ④SC 等関係機関と教職員、保護者連携による教育相談の実施。（通年） ⑤人権学習の実施・地区実践報告会発表。 ⑥学校生活アンケートの実施（2回）	①遅刻回数（延べ）が減少したか。 ②自転車事故を防止できたか、講習会等での指導を実施したか。 ③消防署員の指導のもと、火災・地震・土砂災害等の訓練において、的確に判断・行動できたか。 ④SC 等関係機関と連携して活用状況と生徒・保護者の満足度は高まったか。 ⑤人権学習を実施・発表できたか。 ⑥結果を分析し、改善に結びつけることができたか。	①特定の生徒の遅刻・欠席はあった。 ②自転車事故発生0件。 ③年4回防災訓練を実施。煙体験等充実した内容で訓練を実施した。 ④SC(32回)やSSW を活用し、生徒・保護者と面談を実施した。 ⑤人権学習の授業及び職員研修会を行った。 ⑥「学校生活の充実」では充実しているとの回答が100%。	A 在籍生徒が3年生のみという少人数の中、学校行事や授業、部活動、生徒会活動等に生徒が主体的に取組んだ。また、皆高3年目ということで自信を持ち校内はもとより地域等校外での活躍も多く、活気ある高校生活を送れた生徒も多かった。加えて地域の方々と交流を重ねることで、社会性、規範意識、コミュニケーション能力を向上することができた。しかし、丁寧に指導を重ねたにも関わらず年度当初在籍生徒全員を卒業させることができなかったことはとても残念である。
4	【現状】生徒一人ひとりに応じた指導により令和6年度は12月には進学・就職希望者全員進路決定をした。 【課題】個々の能力や嗜好に合致した進路希望の実現を目指した指導が不可欠となる。 ○計画的系統的指導の継続○理解を頂いている企業との信頼関係を維持○就職支援員等を積極的に活用○「進路の手引」の見直しと有効活用の徹底。	3年間を見通した系統的・組織的な進路指導により、希望進路の進路実現に繋がることができたか。	①「進路の手引」を活用し、計画的系統的な指導の継続実施。（通年） ②各種職業検査や進路対策指導の実施。就職後の働き方指導の実施。（通年） ③進路決定に向けた面接練習。（通年） ④企業見学会への参加。（通年）	①「手引」を適宜活用できた。 ②各種職業検査や進路対策指導が実施できたか。 ③PTA や就職支援員等と面接や指導を受けて進路が決定したか。 ④企業見学会へ生徒が参加し理解を深めたか。	①「手引」活用し、計画的に指導することができた。 ②ガイダンス、検査等全て予定通り実施することができた。 ③PTA や就職支援員等と面接や指導を実施し合格や内定に結びつけた。 ④企業見学会へ参加し、見聞を広めることができた。	A 3年間を通して計画的に進路指導を行った。生徒の適性等も加味した進路指導を実施。そして、一般受験(4年制大学)の生徒以外の希望進路がある生徒については決定することができた。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和8年2月9日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○3年間の商業高校での学びを通して簿記や計算、記録する習慣を身につけることができ、今後に活かしていける力となっている。 ○高校通級の取組などを通して、きめ細かく丁寧な指導に取り組む学校として高い評価がある。今後、皆野高校が取り組んできた多様な生徒にも対応する教育を他の学校で導入すべきだと思う。 ○校内に留まらず学校外へも学習の取組として地域に向かい様々な連携・取組をしている素晴らしい学校だと思う。観光ツアーの実践をはじめ地域の方々と触れ合う貴重な体験をさせている学校である。	
○1年間かけて授業で取り組まれてきた12月実施の観光ツアー、高校生でもこんなことができるのかという皆野高校の素晴らしさを感じた。様々な取組を実践する中で、地域の人に助けてもらいアドバイスをいただきながら大きく成長した生徒の姿を見て頼もしさを感じる。 ○地域での繋がりを大切に人との関り方を勉強してきた経験は生徒自身のためになっている。中学時代は表立って行動できなかった生徒が高校では沢山のチャンスをもらい活かすことができたのではないか。 ○ファイナルイヤー、しんみりするのかと思っていたが、そんなことなく盛り上がった。1年間暇なく皆さんからの提案を実現に繋げた生徒も教員もすごい。皆野町にも皆野高校が沢山のものを残してくれた。形はもちろん気持ちや記憶、気づき、あと1か月を楽しみにしたい。 ○今の中学生にも皆野高校があれば進学したいという生徒がいる。皆野高校の大切さを改めて感じている。皆野高校が11年間取り組んできた春の交通安全運動・お守り配布は皆野中学校が引き継ぐ。	
○皆野高校は日々先生方が優しく暖かく迎え入れてくれる学校、毎日学校に来たくなるよう接してくれた。 ○生徒会も沢山の取組を行い、スケジュール管理も身に付けてきた。今まで親に予定を管理してもらっていたが、自分でできるようになったと実感している。 ○生徒の皆さんボランティアへの参加などご苦勞様でした。皆高の企画は商業高校として他高校も見習うべき内容だと思う。ぜひ皆高の取組を他の商業高校に導入できるような働きかけをお願いしたい。 ○5年間委員を務め良い経験ができ皆野高校の最後に立ち会えて良かった。生徒たちも、初めて会った時より成長した姿を見せてくれている。本当に良い学校だったと感じている。	
○観光ツアーが例に上がっていたが”普段ではできないこと”と一緒に取り組むことができたのが皆野高校の良さだ。これらのことを繰り返し、やっていくことが将来につながると感じている。 ○生徒も先生も頑張っている。素晴らしい先生方に感謝。もっと学校行事に参加したかった。生徒も先生方も次のステージでの活躍を期待している。	